主従心得草三編

下

ロ 9
1549
5

門口仁9
1540
5

弘化四未正月吉祥日

繪入 平がな 主従心得草三編 上下

東都下谷金杉

壽福軒述

壽福軒

京都帝国大学図書

自序

○心學の道ゐ入者ハ家内の和合ハ勿論。一家親類とも中よく暮し。人交りをよく致し。邪まなる人ゐなふてとなりをそこなふ。且又産業を怠らむ足事をもり　御代の恩沢をもり　御法度を大切ゐ守り。唯今日の無事を樂ミ。世を安心ゐ送るの教へ也。智者学者ハ鬼もあれ。家業ゐひまもあき人ハ此道ゐよらむしていよゐき所ハ通りがたし。心学ゐ大利益ある事を知て人ゝ學びゐふべし

○此本の所ゝゐ御政事を批判するやうの事あるとも中ゝ左様の事ゐあらも。大家小家共ゐ主従の心得を論ずる時ハ

家くの政事法度おきべ。何と形く御政事の事れやうのあるあり。又古語を引て主従の心得を論ずる事あるをで御政事の支もなるべし。いづれも主従の善悪をいふ事あるをで家を齊へ國をおさむるの評判せるべきりがてし夫故に是非あく御政事の支を引て善悪をまくる事あり。何をいふと唯主従の心得を申す迄の事あれば。よむ人心得違あきやうのをでし。此草紙ハ家業のひまあき人の為又四角なる文字のよめがてき人の為のものなるを

○弘化三午年十月　御免　同四年未正月出板

主従心得草三編上目録

一智者の善人を用ひて愚者を用ゆるとあるをといふ事　一初丁
一富歳ハ頼ミ多し。凶年ハ暴多しの事　二丁
一古への奉行人ハ先我身をよくいましめて。人を治むる事　七丁
一名将ハ功ある者を賞して已れ権威ぢりを取事　九丁
一上へ向ひて唾偽りをいふ者ハ下へ向ひて慈悲あき事　十丁
一延喜帝菅亟相ハ人を賞まるの道を問ふ事　同丁
一國家を治むるの大事ハ賞罰の二ツのありといふ事　十三丁
一青砥左衛門が坪の内へ銭三百貫文投込ありし事　十四丁
一孔子の訴へを聞事吾猶人のごとしの事　十六丁

一 小僧三ヶ條の事　九丁
一 けんくゎ論ハ両方の理非をよく聞糺せといふ事　九三丁
一 主君一人の賢智が大入用といふ事　九九丁
一 手島先生の前訓並無欲清淨の事　三十四丁
一 百乗の家ハあらまほしの臣を養ひぬといふ事　三十七丁
一 一切の悪事ハ欲の一ツの変化遠島死罪の根本といふ事　四十一丁
一 仁ハ人の安宅義ハ人の正路といふ事　四十九丁

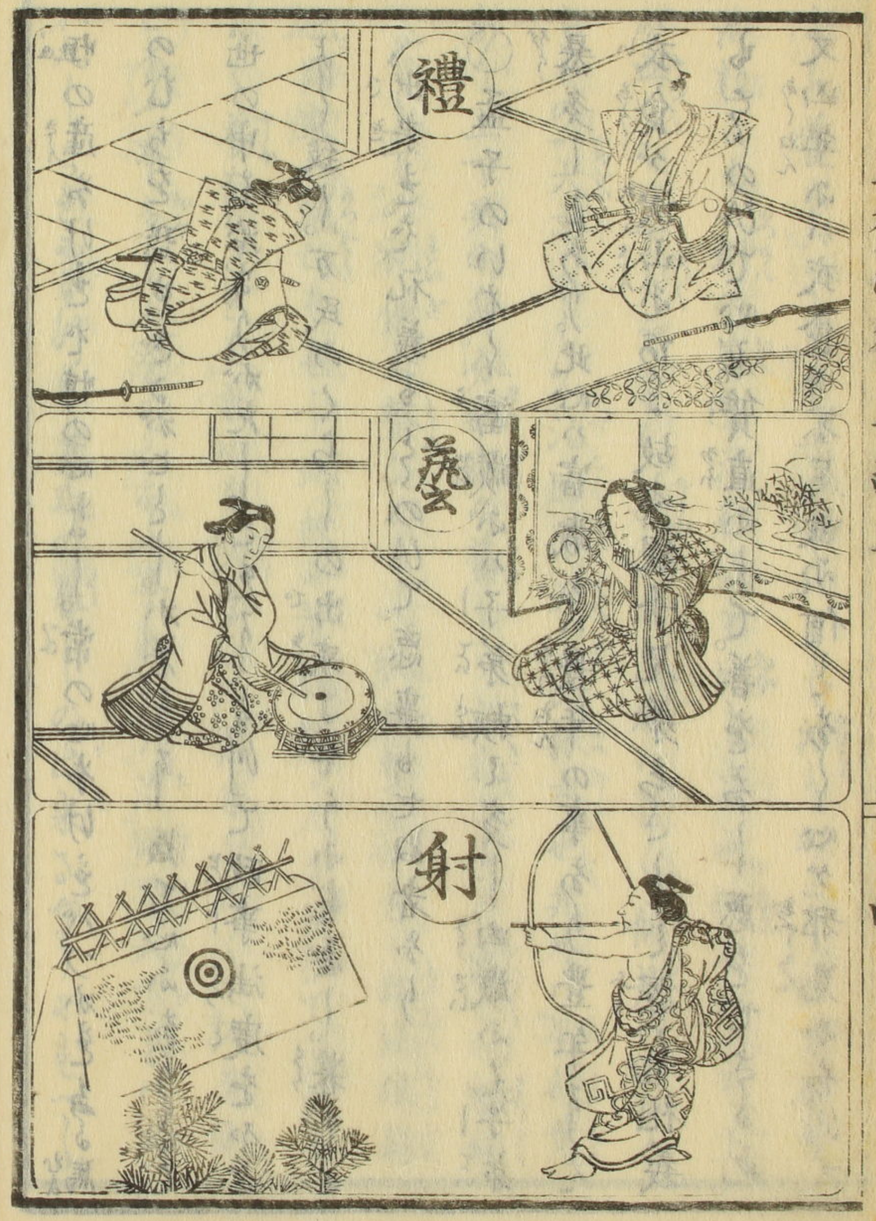
主従心得草三編上

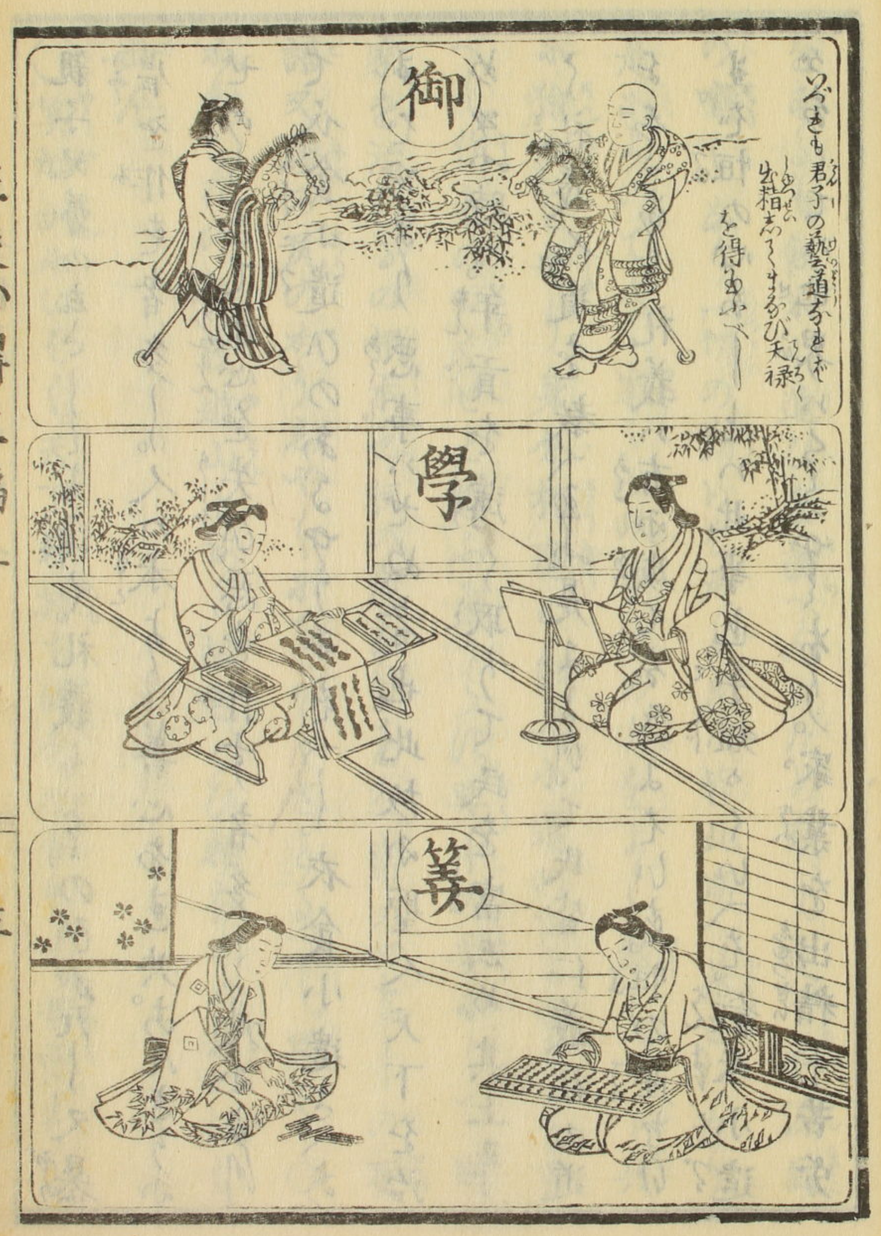
○前編ハもりふ通り。上ハ立人の一大事大入用といふを智者の善人を知て擧用ひ。悪人を遠ざけるハ上ハ立人の職分也。実智の人を用ひるを。國家ハ苦労ハよく治まりて万民ハ安泰也。善人を用ひて善政を行ふハいづれの民ハ治まらざらん。若悪人を用ひるを悪事をなりおこりて万民のあんぎいたん方ハ万民のあんぎが頓て主人のあんぎとなる也。是ハよく智仁勇ある人を用ひて善政を行ふべし。天下國家を治むるといふハ万民をよく養ふ事也。一軒の主を妻子けんぞくをよく養ふ

よく〳〵養ひざるべし。世の中はよく〳〵治りがたし。百万石城治むるも一軒の家を治むると同じ事也。何をいふぞ。上ハ立人くハ下々をよく養ふより外ハなく候。是ハ世をくらもの一大事ハして。治國平天下の根本也。其外ハ皆枝葉あり。上下共ハ。身分相應ハ暮しが出来ざるべし。家くハ騒動なる上下の礼儀も整ひがたし。礼儀整ざるバ乱法狼籍也。國家ハ滅亡も疑し。此故ハ智徳ある人を用ひて。万民をよく〳〵養ひざるべし。善心を失ひて悪事をたくさん人をそこなふ事多し。人をそこなふ事あるべし。治國平天下といひがたしこゝをハよく〳〵万民の暮しの出来るやうハもべし。

恒の産なけるべし恒の心なし。常の心なけるバつかるべ馬のむちを恐るべきがごとし。かゝるハ如て心ハありそ。世の中を治まりがたし。ゝるよりて政事法度をハどよく〳〵致し。万民のくらしの出来るやうハを図し。暮しさへ出来るべ礼義もとゝのひて。悪事もせぬ者あり

○孟子のいはく〳〵富歳ハ子弟頼ゝ多し凶歳ハ子弟暴多しとあり。此心ハ富歳とハ豊年の事あり。豊年ハ衣食ハ沢山ハなる故ハ。親子兄弟もとゝのひて心も。質直ハして。善をあし悪をせざるべ。又凶年ハ衣食ハ不足故ハ。何とあし心ハ邪見ハあり


禮
藝
射


御
いづれも君子の塾道なれば
生相まつくすべし天禄
を得ぬべし
學
筭

親子兄弟のたさ〳〵も薄く。礼義もとゝのひがたし。又暴
虐を作す者多し。人ハ本より善心あるゆへ共。あんきうか
せめらるゝて本心を失ひ。悪を作す者多し。是かゆへ
て衣食小遣ひのあるゆうかをべし。衣食小遣さへあ
るゝなら悪事ハせぬ者也。此故か聖人天下を治
めゆへ時ハ。年貢を薄く取りて民を富ため。其上ゆ
へ礼義人道を教へあり。是ゆへて民皆仁義礼の道
をたるあり。礼義ハ有か成てあるゆへ也。恒の産なけ
れを恒の心なしとい此事也。手短くいへば。飯米小遣
ゆあくてハ世界ハくらゆあり。家業を出精し。苦労
をするも。飯米小遣ひを調へんゆためあり。是ゆ本源誠
の噺しあり。一切の勤めたらきハ。皆此所へ落とあり。
是かゆへて人〳〵家〳〵の政事治め方をよく致し。上下共
か倹約を守り身分相應か飯米小遣のゆるゆうすゆ
べし。作者の口くせと思ふ。要中の要かして國
家を治むるの根本也。恒の産あけを。常の心なしの聖
語又鍋の尻のかうたやゝかて。よゝくきとるべし。哥ゝ○
かゝこれの礼義遊山もゆる故ぞ。くひ物あくば。息の根も
出ん
○眞加訓ハいとく。天下を持ち國をたもちて。苦労まる

も卑竟飲食を以て口を養ひ衣服を身のまとひとせんが為也。士農工商皆同じ。王公大人の腹とても。大きなるものならず。上下尊卑といへども。身の分限のまとをのまと。裸のまとて元亢時ハ。五体の毛頭のそる事なし。唯少〻色の白くしてけだるき迫のたゞひとありとあり。かゝる大小上下の違ひあるも共。其本源ハ飲食衣服を求るのあり。是ゞ為けを身心を安樂のしてて善をなす事のこゝろまで。此故の飯米小遣ひのなるゆゑのもべし。是身心安穏のして。仁義礼智信を行ふの本也。孔子も先万民を富しめて。其上の〻〻禮義を教ゆべしと仰せらきたり。是のくよく出来る事。

此本のハ詖辞淫辞邪辞文字相違の所ハ御免ある事し。詖辞ハゆきつまりたるこゝゞ。淫辞ハみさりの取ちまりのきこゝゞ。邪辞ハよこしまのひがゝたる言葉あり

○平家物語のいそく。古へ聖人の御代の奉行人ハ家来より先我身を深〻禁めこゝり。外々の者よりも先吾家人を罰を。此故の其家よ〻治りて。公事の私しあり。公事の私あきの時ハ。其法よ〻立。其法よ〻立時ハ政事正しき時ハ天下泰平也。アアかゝし。末世ハ至てハゆうの心得をもる人も希あり。唯利欲才覚なる人をよき人と心得て。夫の奉行職を授けこゝ改事をおさしむ。その官卑ちくして。其禄少な

けまゝ共。其役ゆかををゆゆして其者ゆ恩とあん。ゆらゞ公事ゆ私〳〵ゆゆして。其政事かゆらず正〳〵かゝず。政事正しかゝざる時ハ。下の悲歎ゆまず。一度非政を出せゞ。天下皆くらゆゝとある。何を以て万桟を治めん。智仁勇ある臣下を用ひて真直なる政事を致すべし。若不直のたゝひあらバ。家来ハ勿論。主君も國家を失ふべし。ゆるゆ桒時の政事をこう行ひゆひ〳〵時ハ。正直正路の大道を行ひゆひ〳〵故ゆ。万事上の仰せをよく〳〵用ひて世上自然と静ゆして世の訴も少なきあり。此故ゆ人〳〵善政を行ひて國家を太平ゆをゞ〳〵をゆう。是ゆ相違なし。奉行職都て〳〵人の上ゆ立人〳〵ハ先我身を第一ゆよく〳〵正〳〵く致〳〵。其次ゆ家来けんぞ〳〵の無理非道をひどくいまゝむべし。主人の威をかり主人よゆ〳〵てよく悪事をなる者也。此事を心ゆうけく家来けんぞくゆ非道あきやうゆをゞ〳〵。若家来けんぞ〳〵ゆ無理非道ゆあまハ。是即ち主人の越度とある。此故ゆ家来けんぞ〳〵の悪事をひどく罰をゞ〳〵。其後民の政事を取行あくゞ。万民ハ御上の御法度ゆよく〳〵守りて自然と國家安泰なるべし。

○和論語ゆ源の勝元のいへ〳〵。天下を治むる人ハ万民の罪を憎らて誅せんよりハ。己まゞ悪心悪行を切べし。己まゝハ悠〳〵めゝて。万民をいまゝめゝり共。罪人ハ弥〳〵多くるべし。君ハ休ゆり。

万民ハ影なり。体正しからざる時ハ影直からぬ苦ありと。又同書り源の氏綱のいましめに。良将ハ己まづ罪をせめて。人の罪をせめず。國家の治乱ハ我よりなり。民の心のよろしからむ。己まづ正しからむに民も罪をるハたとへば。木の根をたちて。枝葉のもげらん事を願ふがごとし。無智といふべしとなり此二段の和論語をよく考へて。人の上ハ立人ハ。先我身我心を正しくして。其後万民の罪をせむべし。己まづ正しからずして。民をせむるハ体なくして影の直なるを求るがごとし。あるべからぬ事也。先己まづ悪心悪行をやめて其のち万民を正さしむ。令せずして万民ハ善心善行あるべし。國家を治乱ハ上たる人の善悪よりして。民のたる所かくのごとし。孟子云

いはく。君仁なれば民仁あらざる事なし。君義あれば民義あらざる事なし。又論語ハいはく。其身正しければ令せずして行はれ。其身正しからざれば令すれども共行はれざるなり。爰を以てよくよくこれを考へ共行はるべし。此文段を上ハ立人ハ急度心得て。我身我心を正しくあらん。下ハ臨むべし。令せずして民よく治まり。罰せずして民よく恐れ慎むべし。主君たる者此儀をよく心得べし。此令せずして民よく治まり。罰せずして民よく恐るるの上くの治め方秘事口傳をよくあるべし。又ひどく令して民を治め。ひどく罰して民を恐れしむ。愚人のなる所なり。頓て乱を招くの兆しなり。又過ちを引出して己まづ家

身を失ふ人あり

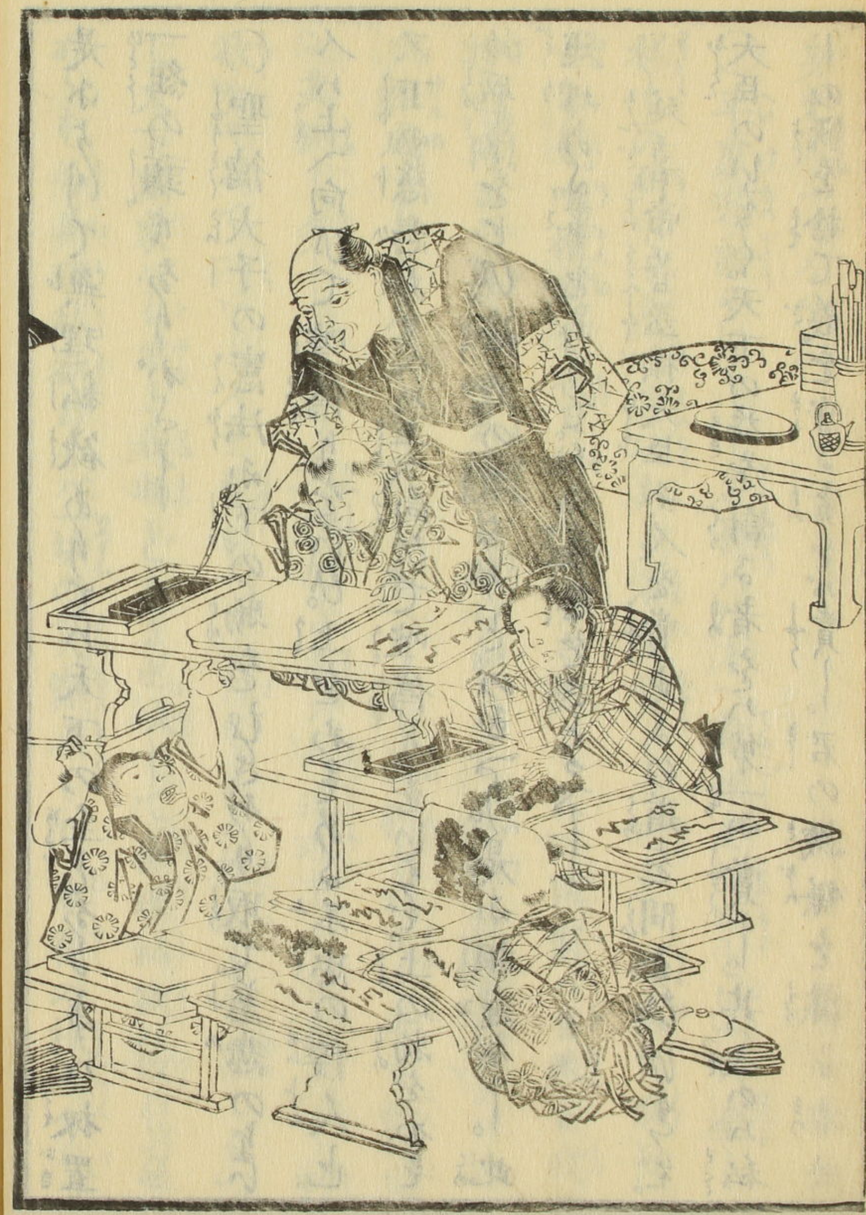
○平家物語にいはく。名將はたとへ敵國を攻取とい(共全く)私一の利とせず。唯其功ある者を賞して。已れは權威を取ざる旨とも。唯權威を取て利を取らざれば天下國家は自然と我物也。再るに愚將は其權を取らずして。其利をむさぼる故に。權威まぐれなく。其利まで失ふ事古今の世に其例一多しとなり。大將たる者は此道理をよくしるべし。私欲をやめて功ある人を賞もべし。左もなくば權威まで重くあつて。天下國家は自然と我物となる也。決して無理私欲は致すべからず。若無理私欲あらば。一切の災難來りて無福の根本なり。

是ゆへに無理私欲ありては天下の主となる事は扨置一組の頭たるべきなり

○聖德大子の憲法に。下の物をむさぼり取て。慈悲のない人は上へ向ひて啞偽りをいひ。上をかすめる不忠の佞人也。又下に慈悲ある人は上へ向ひて啞偽りをいはず。上の物をかすめ取事をとび。忠義の者ありとのべつり。是に相違あり。此道理ある事をよりて。人の善惡をさとるべし

○延喜帝菅丞相大臣に人を賞するの道を問ひ給ひけるに。大臣のいはく。天下の益を計る者を第一に賞し。其次には私一の欲を捨て義を守る者をば賞し。君の機嫌を謀る者共

童男童女習ひ事を出精まべ
物習はざまべせいぎんの後大いに
くやむ事あり物習ふハ出世のつる
貝宝のはつまり所



かハ。決して賞する事あるべき。今ハかるべき。君の機嫌を取者をだ心あ〳〵と云く。此人ぞうりを賞し給ふ故なり。天下の者其君の機嫌のゝをつくろひて様くに便りを求めて。唯上のこゝ〳〵ばへらひて。下の難義をかまはぬ。唯己をのゝを利せんとす也。此故に政道正しからぬ政道正しからぬる時ハ。君臣共に亡ぶといへり。是に間違あり。此通りに心得て。是を引ハ主人あるべ〳〵天下の明君也。天下を益する者ハ日月佛神のひとし。君の御機嫌を取て用ひらるゝハ。へつらひ者也。邪欲にして不忠不義者也。唯己を利せんとする。天下の罪人あり。決して用ゆべからぬ恐るべし

○中庸にいへく。君子ハ上位に在て下を陵ぐぬ。下位に在て上を援ぬ。己を正ふして。人に求めざる時ハ。怨なし。上天をも怨ずぬ。下人をも尤めぬ。故に君子ハ易きに居て以て命を俟。小人ハ險しきを行ひて以て幸を徼むといへり。此心ハ上に在て下を陵ぐぬとなり。権威を以て下へ無理せぬとなる事也。又下位に在て上をひらぬとなり。御上のおゑきと申して下を云へたげ御氣に入て恩賞に預からんことを望まぬ。真直にたゝひをして。中道のよい所を行ふをいふなり。上に在ても下に在ても己を正ふして。他人を求る事なし。権威も福徳も人に求めざる時ハ。天をも怨ずす

人をも咎むる事あり。又君子は易きに居て命を俟とりふた。唯道をおこなひて。吉凶禍福は天命に任せて安心に世の中を送る事也。又小人は險しき行ひて幸ひを徼むるなり。小人は險きことをして。まぐれを幸ひの福徳を急に求めんせも。中こ左様に奈りがさし。何でもかでも。吉凶禍福にうまもぐと。善を行ひて天命を俟より外あし。無智の小人共此義をよく心得て。唯善心善行を以て天地自然の福徳を求むべし。是を無欲清淨といふ大賢君子の道也。唯仁義忠信を行ひて。福徳は天命に任せて安心に暮をべし

○貞觀政要にいはく。國家の大事は唯賞と罰とのみ。賞罰道に叶ふ時は無功の者は自ら退く。罰其罪なくして時は悪をなす者は。誠に怖る此故に賞罰を軽く行ふべからざる書にいはく。帝王の德は人を知るより大なるはなし。人を知る用ゆる時は。悪人はかくれ善人のみとあらはる。國家は自然と泰平也とあり。此政要の心をよく志すべし。智仁勇の三德ある人を用ひて。賞罰をあきらかにして泰平の御代とあるべし

○論語にいはく。刑罰中らざる時は。則ち民手足を措所なしと註にいはく。刑罰已に乱るるときは民恐れて天にせくぐまり。地にぬき足にして安らむ。手足の置所なし。是政要と合せ

勤ふべし。平治物語ハいとく。密ハ思ひ見るに三皇五帝乃國を治め。四岳八元の氏をあげくるも。皆是器を撰んぐ官に任じ。身をかへり見て禄を受る故也。君ハ臣を撰んく官職授け。臣ハ己をたくりて。職を受る時ハ。労せずして民化まるといへり。故に舩航の海を渡るハ必ず楫揖の功をかり。鵠鶴の雲をたのぐハ。羽翮の用かゝる。帝王の國を治むるハ必ず臣輔のたすけかゝるといへり。此通りハ相違なし。人君たる者ハ撰んで良臣を用ゆべし。又臣下たる者ハ己ごの才智を量りて我分に當る役義を法とすべし。己ごの才智あくしくよい役をつとめたゞるハ不仁不智の人の望む者也。かゝうある人ハ役義ハ申付がたし。己ごを知らざる人なり。己ごを知らざる人を人を知らず。前後真黒かりかやうなる人ハ役義ハ申付がたし。まづく人の上に立く人の善悪を糺す者が。己ごを知らず人をたくずして可あらんや。なくぬ事多し。上下の難儀なり。決して用ゆべからず。己ごが才智をたくりて役義をつとむる者ハあき人あり。是ハ用ゆべし。

○聖徳太子の憲法ハいとく。政事の肝要ハ。良哲を尋ね求めて。用ゆるハなくぐ。ぞくハ。國家ハよく治りがたし。政事に預る者ハ仁徳あけまいぐ我好身の者ハひいきあり。勇徳

おけるをバ威ある者ハ恐れ義徳あり礼を貶賂を迷ひ。智徳なけれを巧みなる者ハくらまさる。此四徳ある者ハ賢人也。賢人ハ得る事かたし。四徳なる者を得ぎバ。一徳を叶ふ者を用ひよ。一徳なる者を用ひを四徳ある賢者を出来るべしとあり。よき人を用ゐる時ハよき人がよき人を呼て誘ひ出すとあり。論語ハ仲弓がいはく。焉くんぞ賢才を知て擧んや。孔子のいはく。爾が知る所を擧よ。爾ぢが知らざる所ハ人舎んやとあり。ホらを。我がなりたる所の賢人を擧用ゆまを。知らざる所の賢人も段々聞傳へて尋来るとあり

○太平記ハいはく。なる時徳宗領ハ沙汰出来て地下ゑ公文と相撲守と理非を論じて。公文が申を所道理ありとハへども。奉行等徳宗領ハ憚りて。公文をまわしける。青砥壹人權門ゆも恐ぎバ。理の當然を委細ハ申立て相撲守殿負しけ。公文ハ不慮り利を得て。世帯安堵しけるを。其恩を報せんとや思ひけん。なる時錢三百貫文俵ものいきてうろの山ありひそうハ。青砥が坪の内へ投あくし置ける。青砥是を見て大いハ憤り。沙汰の理非を申つるハ相撲守殿を思ひ奉る故也。全く地下の公文を引ハあらむ。若引出物を取べきあらむ。上の悪名を申留めぬを。相撲守殿ありこと悦びをゑ恥き筈あり。沙汰

か勝とる公文が引出物をもべき筈おしとて一銭も用ひず。悉く持送らせて返しける。自余の奉行頭人も此事を関く已也を恥る故か。聊も理か背きたる事おし。誠に古今まれなる廉士也。一切の政事をつゝさどるものハかゝるか致し難しとあり。青砥左衛門藤綱ハ勇徳あつく。威ある人ハ恐る事あし。智仁勇義を兼たる一騎當千の男也

○和論語か平の泰時のいたく我常か人の心に奸曲あき事を思ひぬるか。今かゝる訴へを聞事官外也。然るか廉直の中か詮論あし。一方ハ定めて邪しまあるべし。邪しまある人ハ於ていハ忽ち罪か行ふべし。邪しまある人。國か一人ある時ハ。万人の災ひ也。天下の敵何事うこもか過んやとて。訴へをもけらるゝけれ也。日を追て邪しまある訴へかあるべしとあり。此邪しまある者國か一人ある時ハ。万人の災ひとあるといふ事をよく思つて若邪悪の人ならハ心かけて取べし。同書か泰時の父義時朝臣ハ頓死あり。泰時のいたく父常か弟共を強ちか愛しゆひしありとて。所領を舎弟達か過分かりけ遣ハして。自分か三四番目の弟の配分ハ取て天下を治めるか。諸大名以下皆是か恥て國家ハ静かか治まりぬるとあり。一切の災ひハ貪欲より起る事也。小欲知足ハ一切の災ひを遠る道あり。北條家の繁昌ハ泰時の小欲知足か依てありと悟窓漫

筆ゐ見へたり。一切の主君達相應ゐくらも者ハ。皆泰時公ゐ習ひて小欲を樂しゝ無理ゐ強欲をもぐからむ。さすれを自然と世の中ハ靜謐ゐり。一切の訴へハ多く邪欲強欲より起る者也。正直小欲ゐる時ハ訴へゐし

○大學ゐ孔子のいもく。訴へを聽事吾猶人のごし。必ず訟ゐからゐめん情ゐき者ハ其辭を盡す事を得ず。大いゐ民の志しを畏ゐむ。是を本を知るといふとゐり。註ゐいもく訟へハ公事訴訟の支也。公事といふ者ハたゞひゐ理非をゐらそひ。辨舌を以て。非を是ゐいひゐも者ゐきをうゐつゐ弁別ゐがゝし。孔子も訴へを聽事ハ吾も人並ゐも共。其本を正しくゐて。訴へゐきゆうゐすると

ゐり。其訴へゐきゐりゐもる本といふゐ。惡人共がうそ偽りをゐまへゝことゞをたくゝふして。上をゐぎむき。相手の人を負して利德せんとする。然も共公事さゞく人が正直の智者ゐて惡人共のうそ偽をよくゐ別て罪ゐ行ひゐふ。此故ゐ惡人共い大いゐ恐もて。ふたゝび訴訟もる人ゐし。是を其本を正ゐくして訴へゐきゆうゐすると仰せらるゝ者也。上ゐゐる人が智者ゐて清潔つ白ゝ公事を捌く時ハ。惡人共い恐もくゐのゐ訴へハゐくゐるべし。若依怙ひいきの沙汰ある時

青砥左衛門の埒の内へ
銭三百貫文落しつけ
ふびんなることなり

ハ内縁手づるを以てうそ偽りの訴へ多くして政事い弾く乱れて。世の中ハくゝゆゝしき也。此故ゆ公事い依怙ひいきあく。真直ゆさだゝゝべし。真直ゆさだゝゝ時い内縁手づる者又悪人共の啌偽りの訴へハあくあつく。國家い清浄ゆ治まりて上下共ゆ安泰ゆるべし。是を其情あき者い其ことを盡もてを得ぢ。大いゆ悪人共の心を畏もしむとりふ。是を其本を正ゝくして訴のあきやうゆまるゝと仰せらまたるりの也。又いひ取いひあちを以く。勝敗を付る時を。ゝ事訴訟ハ弥ゝ多くあつて。万民の難儀とある。是ゆよいひ取いひ勝のてをぢゆあまをぢと。無理非道の悪人

を取りひしぎ。正直の善人をかゝ志むる時ハうそ偽りの訴訟を自然とあくあつて上下共ゆ安泰也。いひ取いひがちのことぢゆかまをぢと誠の善悪をよくあつて賞罰をほのきらかゆまる時ハ。悪人ハ大ひゆ恐きてふゝび訴訟ハ致さぬ者也。是を其本を正しくあて訴へあらら志めんとりふ。いひ取いひ勝を以て。勝敗を付る時を。其情あき者ハうそ偽りをいをせぢといひがゝし。うそ偽りもよくいひまをぢ。勝志むるといを称ばあらぬ。夫でハ無理非道の悪人でも。辨舌さえよけをべ。公事ゆかち。道理のよくき善人でも。辨舌がまるけをべ公事ゆまける。夫でハ悪政とりふべし。御政事が真直ゆあく

善ハ善、悪ハ悪と。急度もらぬときハ。世界中の大難儀とある。
夫故ハ孔子も苛政ハ虎よりも恐ろしと仰せらるたり。若
うそ偽りのいつたへが通るやうでハ。情あき者ハ其ことゝを尽
もことを得ぜしいひごとし。政事の政の字ハそむく。世を
中の盛衰安否ハ御政事の善悪ハよるべし。世の中ハ此上
の大事あるべからず。是ハ無理非道ゞある時ハ。世界ハくらや
みあり。是ハよりて智仁勇の三徳ある人を多くして。政事の
役ハ致すべし。さるとハ世の中ハよく治まりて。上下共ハ安泰
也。若不直の政事をする人くハ。直ハ大災害を引出し。我身
を失ふ人也。此儀を深くもつて真直ある政事を致すべし。

さるとハ御主人江ハ大忠義。其身も万民も安全あるべし
○公事をさばき。人の善悪を糺す者ハ。片方ばかりを聞
てハ理非ハ知ぬ者也。両方をよく聞と上めく。善悪をさ
だめべし。落穂集一ハいたく。なる時
御明君の御前ハ御用之儀ハ月諸役人中罷出らるゝ節。
用事終て後ハ　御意遊ばさるゝハ其方共ハ小僧三ケ
條と申す事を聞たるやと御尋遊ばされ時。誰も左
様の儀ハ承りたる事御座なく候と申上げるを。然らば
申し聞せべきとの　上意ゆゑ御雑談遊ばさるゝを
ハ。去田舎寺の百姓檀方来りて申す様ハ。我等子供を

なまと持候へば一人ハ御寺の弟子ゐあ〜下さるべ〜と願ひ候ゐ付。和尚承知〜て天窓を剃り出家とあ〜掃除をさせたり。御經を教へたり〜て差置候所ゐ。ある時件の小僧親元へ逃帰りゐゐ付。師の坊よりよびゐ参さ申へ共。めへり申さゞ其後二親共よ来りて申〜いゐ。我等せがを儀も。最をや御寺へゐめ〜申を間鋪ゐ。其元様ハ御出家共覧え申さゞ候。未ゞ年も参らざる小僧ゐ。御無体ある事を御申〜おさをひとて。大きよ不足を申〜いゐ付。師の坊申されるハ。二親達の願びゐよつて。我等ゞ弟子ゐ致〜いゐ共。是非取もどきとの義よ放てハ。其方達のゐ了ゐ致をべ〜。さりあゞら夫ハいろゆりある子細ゐと候哉と尋らをけをバ。親共申〜候ハゐ僧御寺より逃帰り我ゐへ申聞候儀三ヶ條有之候。第一ゐ味噌の摺様悪鋪とて御ちりのよ〜。第二ゐハ和尚様のつむりのそりゆゝ悪鋪との御ちゝ。第三ゐハ用事を達〜候節。雪隠へ参り候とて。御ちりのよし。是ゐの儀ハ皆以て和尚様の御無理と申を者ゐて御座い。年も参らざるゐうでめゝ。みそを摺候ゐ於てハよくまれ申を苦ハいとをあき事ゐい。且又和尚様のつむりを小僧ゐそ〜せ候ゐ於てハ是もよくをを申を苦ハいとをあく候。扨又用事を達〜候ゐ於てハ。雪隠へ行ぞ〜て何方へ行る者よ候哉。是ハ皆以

てなるべく様の御無理と申も者ゐて御座候と。居長高ゐあつく
の方り申もゐ付。和尚申さるけるハ小僧が申もを聞て誠
と思ひ。親く達の身かて左様ゐ申さるゝい右ゐ共。一向左様
ゐ事ゐてハ是ゐ〳〵候。惣ゞて味噌と申も者ハ。摺粉木ゐて摺
者ゐり。ゐるゐ小僧ハ扨子の甲ゐてすりハゐ付。扨僧是をも
り申候。摺粉木ゐてすりて夫でもをもぎゞ小晩故共申もべ
きゐも共。扨子の甲ゐ〳〵もるゐ放てハ。小言ハゐあるり也。
ゐり。寺中ゐ居るゐどの扨子ハ皆もりつぶし。ゐのまゝ〳〵我
等客来の時の為ゐとてたゝ〳〵ゐ置たる扨子の甲迚もゐくの
どくゐ摺ゐふりハとて。是を皆取出して見せ申さるけるゞ

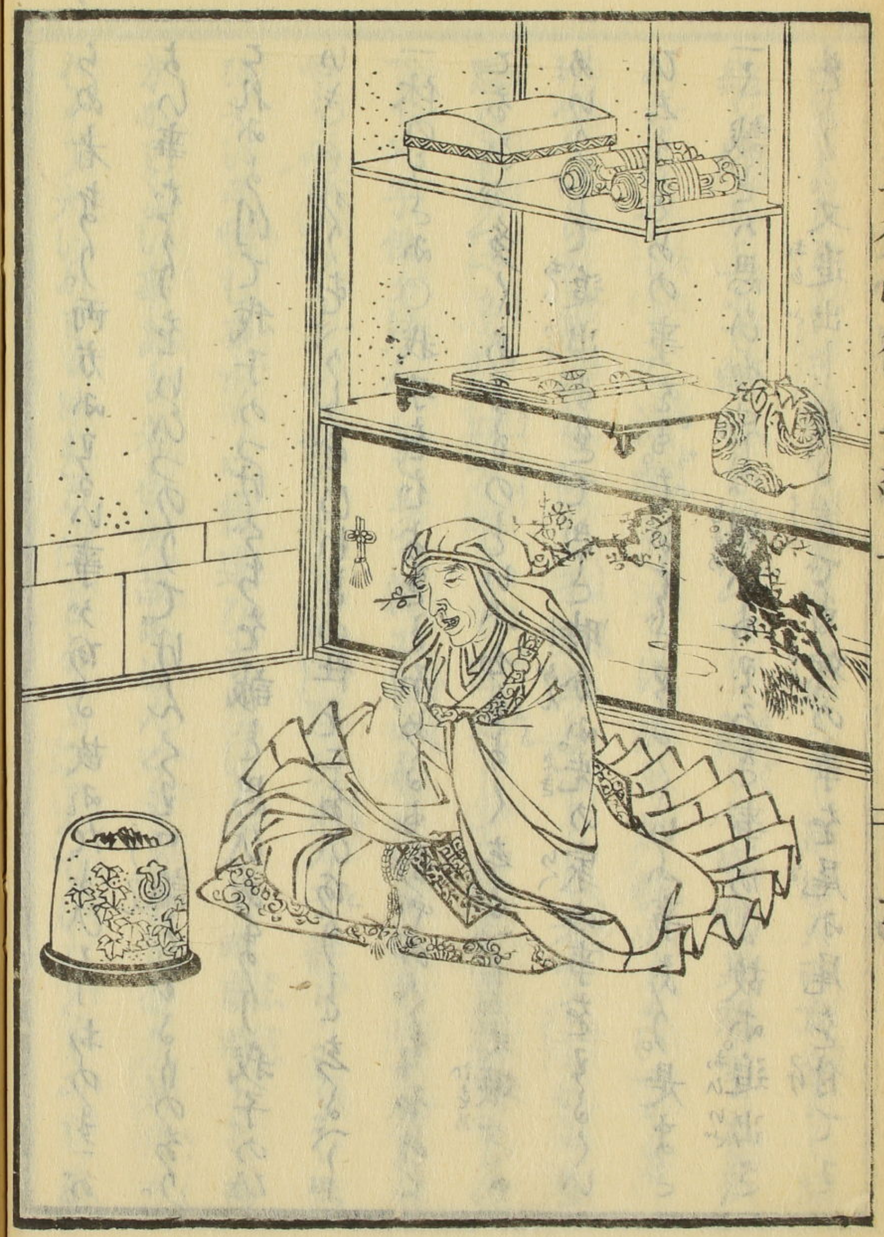
親達ハ大いゐ肝をつぶして居るりける。扨雪隱の事ハゐど
近き所ゐ居る常の雪隱へハゐるゞして。近頃代官衆在方廻
りの節。當寺を宿と致さるけハ付其節の為ゐとて村中の
世話ゐ〳〵客殿の見きゐ造り置たる雪隱へだるり小僧ハゐ
く故ゐ是ゐ無用と申も事ゐ候。ゐのたりまゝの常の雪隱へゐ
くを何ぞ去るべきや。勘へ見るべし。扨又我等がつむりを小僧
ゐ〳〵せ候儀ハ。其方達の存ぜざる儀もなるべし。小僧ハ剃
刀を天然とよく〳〵ゞひ覺へ〳〵已ゞが頭も自分剃ゐ致
をゐどの上手也。夫故ゐ余人が頼めハ何者の頭もよく
そり申ハ〳〵候ハ付。我ゐが天窓もそらせ候へゞ。態と

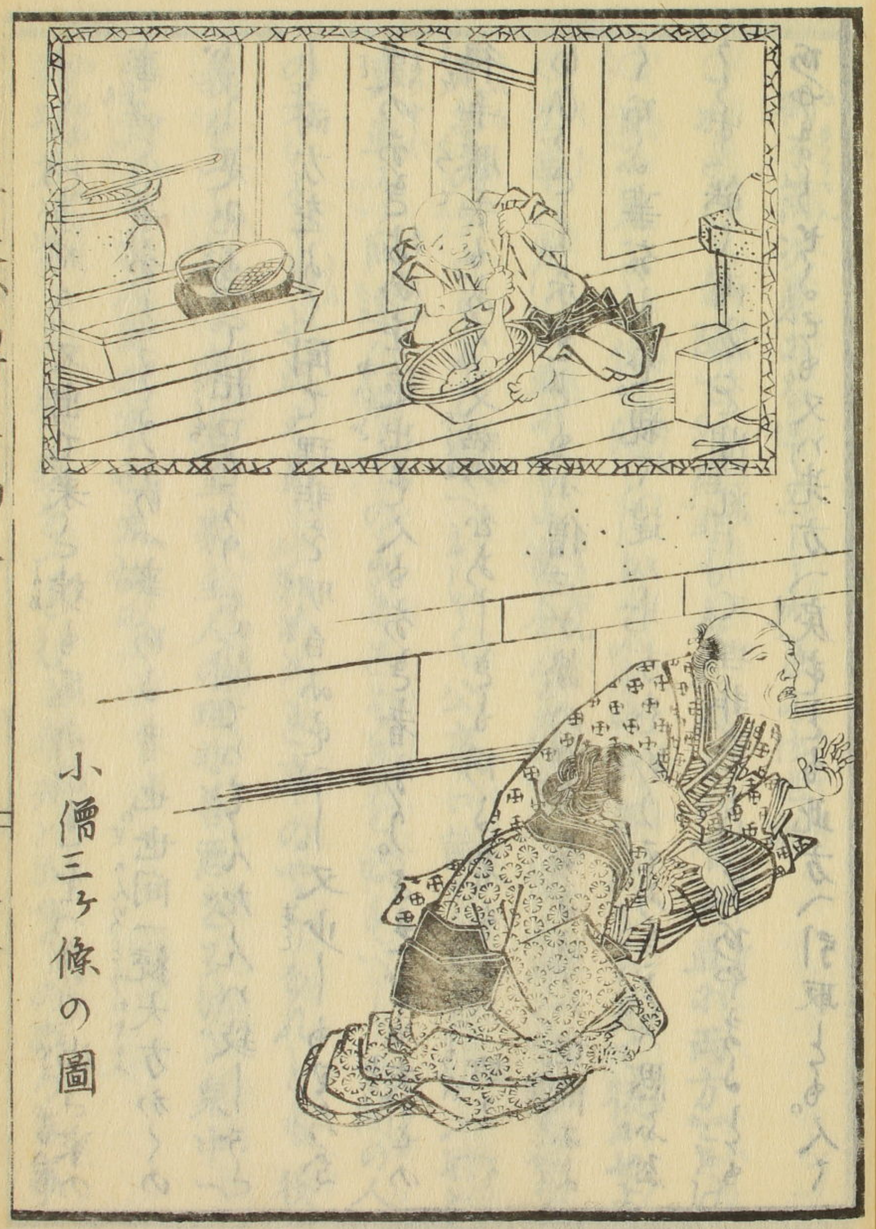
てかゝることを切なりかゝるのどくなるまの内をきゞず
だゝけふ致し候故ふ余人のなるまへよゝそりあぐゝ我
等がなるまを麁相ふそり。きゞだゝけふをるいかゞの
心得ぞと呵り申候とて。頭巾をぬぎて見せゐへぞつむり
中ハ疵だゝけあり 両親ハ是を見て。殊の外迷惑致し。大
ひふなやまゝ入てあくりけるとあり。惣して役儀をつと
むる者共ハかやうのかろき事迄も聞置て心得ふ致したる
がよきぞと 御意遊ばさるゝ候とあり是ハ一切上ふ立
人〻ハ心得置ゆべきあら数事也。人の理非もさだく者ハ此道
異ゝ志ゝ〻ゝとして大きふなやまる事あり。小僧のいゝ事な

かりを聞て理非をとけたゝくた。大間違ひ。和尚のいとれ
る事を聞て理非善悪ハ明らかふとふをたり。片方の
いゝ事ばかり聞てハ大いふあやまる事なり。此故ふ両方ふ
よく聞糺し其上ゆて。理非善悪をさだく爲し是を百
姓町人といへ共此事をよく志洲て居て若も人のあつかひ
事。喧嘩口論中直り等の理非をもとくる事もあらも。両方
の事をよく聞糺して。其上ふて中道のよろしき計ひを致
もべし。此道理ハ一切の事ふ通じて。大入用急度心得置爲き
事也。都て公事けんくも一切のいひ言小事ハこちらで聞バ。
こちらゝが至極尤なりこちらでなけゞあちらゝが至極尤なも。

どちらがどうゝこうゝとり糺りがたし是等は両方をよく聞
糺して其上にて理非をもあつべし誰くも皆我身勝手ゞか
りをいふゝして油断もぐらぐ若手前計りよいやうに
いふ人ならば是をも何ぞ子細あるべしと考へて一ぢいよく善
悪をもうつべうぐ双方をよく聞糺して後に善悪をもろ
べし又子供がけんくもして親に苦口もる時は己れ十分よい
やうにいめゝして親は夫を誠に思ひ先の子計りもるく思
ひ大いに憎む事なり心得違ひなり喧嘩と両成敗とて両
方にもるい事ある者也夫故にけんくもとあるなり若片方
ばかり大いにもるけれども何とかくへこんでけんくもにな

らぬ者なり両方にもるい事ゞなる故に片ばかりあの事ゞ
よい事ばかりをいひつのりてけんくも口論とあるなり
これにより我子のつげぐちを誠と思ひあまり我子のひ
いきばかりをべうらぬ仕そこなひなりとあるべし
一休のうたに○我子をばよきとおもへるもおやのぐち
こゝろひゞ多くあるなりのといふにもよく考るべし又娘がよ
めいりして追出されてきて時分に先の家の事をもるくい
ひたがるとめの事をもたゞもるくいふ事あり是まこと
に誠とは思ひがたし娘にもるもろき事なる故に追出さ
れもろう又追出して方でも嫁の事を尾に尾を付て





小僧三ヶ條の圖

るゝいふ事なり。又出て来さ嫁も尾ふひきをつけて。出さ家の事。姑の事あとるゝいふ事なる者也。世間一統大方かくのごし。是ふよつて片口ぢうを聞てハ。もんだんハ致しぶと。両方をよく聞て。理非を明白ふもべし。又少しもとろふ支のあきよめを追出さ人もあき者あり。さきども夫ことの得手勝手もあり。又姑のゑあしきもなる者あきべ。一概よ。いひごと。ふをども小僧三ケ條のやうなる事ハ世間ふよくなる事あをど。親て達ハ先方ばかりとろきとハ思ふ為ゝず。能く両方を聞糺して。理非をとけて。なやまるとも。なやまるとも。又ハ先方へ戻もとも此方へ引取とも。人て

の御了簡次第ふあるべし。大きふ世話

ごめゝを聞てハ理非もきれぬりの唯正直ふ両方をきけ

○目ふ見ると傳へ聞とハちがふりの大事れとハ見て後ふせよ

○公事ハたゞ正直ふせよ當分ハまけても後ふめぐるなりあり

是等のうもよく勘へおいく。公事口論を取あ川ふ時ハ。

真直り間違ひあゝのよきさをきを改もべし。世間の人

の大いなる為也。此さふゝハあろき事のやうれども。役

義をつとむる衆。名主家主。人の理非善悪をとける衆中へ

ハ至つく大入用の事也。夫故ふ

御明君ハ惣じて役義をつとむる者共ハふやうのあろき事

迚も。聞置て心得ゐ致したるがよきぞと
御意遊ばされたるを。たるる者也。なりあるとき御教訓ゐして。
高貴の御方〻い猶〻大入用の事ゐして。急度御心得ゐ庵
あくてゝ叶はざる事也。若下〻より人の善悪を申し上る時。
一ぢいめ思し召て賞罰なる時ハ間違の事もなりて。存知よ
らぬ難渋する人もなるべし。若下より人の善悪を申上る取
ハ。内〻を能く聞糺し。篤実の人と御相談なりて其上ゐく
賞罰なるべし。上ゐ立ゐ人ゐど。双方の事をよく聞糺しく
理非善悪をゐけぞなぞ。間違ひの事もあつく善人があんぎ
をして悪人が利を得る変あり。夫ハ国家ハ治まりがた

能く御勘合なりて理非善悪を明白ゐるけ賞罰のよく
あるやうゐをぞし國家を治むるの大要也。又中下の者
とても家〻人〻ゐよくなる事ゐを心得おいく理非善
悪を明白ゐ為つく家をよく治むべし。もぞて出入事。公変
でもなるゐどの者ゐあるゐあ〻し。辨舌を以て非を理り
いひゐる者共ゐあるぞ。中〻一通りゐて理非ハ知るがとし
両方を関ても急くゐハ理非ハ分りがたし。然るぞもた
びく両方を突合せくもる内ゐた。うその方無理の方を。
段〻と事の間違ひが出来て後ゐハ理非がたりきりとも
ある事なり。是ゐよりて六ケ鋪公事口論ハ。たびく聞糺

〜て其後ハ理非善悪をよく〜きゞためまり間違ひハなかい者也。此小僧三ヶ條の事ハ高貴の御方わど急度心得居らゐわ〜ゞを叶たゞるを也是ハ上ハ立ゐふ人わど大入用也。いづまふ去ても世間ハよ〜ゝ有る事あるまゞ。勤ゞ〜おいて何ぞの時の用ハ立べ〜

○中庸ハいはく。其人存まる時ハ其政を挙其人亡まるときハ其政息とあり。註ハ文武のごときの君ありて周召公のごときの臣あらゞ政支を行ふ事安〜。其人なき時ハ政事もあ〜らぞ〜て。万民があんぎを致〜。衰微〜て火の息たるゆりハあるとなり。ハらゞ君臣共ハ仁智あり

て。政事をまる時ハ國家ハよ〜く治まりて万民ハ安業あり。又いはく夫政どハ蒲盧也故ハ政事をまる事。人ハ在り註ハいはく。蒲盧ハ水草ハ〜最も生ゞ安き物故ハ。まつ〜ハ人の仕安きハたらふ是ゝ其人を得ざゞバ出来ぐ〜。故ゝ政支をまることハ人ハ在りとハ。人とハ賢人をさを家語ハ政事をまる事人を得るハのりとハ。是皆君臣の賢をさゝとあゝ鬼角賢人ぐあ〜てハ政事ハ出来ぐ〜上ハ立人が二三人仁義礼智信あらハ國家ハ安〜と治まるべ〜。君臣ともに仁義実智あ〜ゝてゝ。國家ハよ〜く治まりぐ〜。君臣共ゝ賢あらゞ國家を治むるハ何のあゝと

き事うなるべし。又君臣といひふ者の先主君一人の賢をが弟一の大入用あり。主君さへ賢あるをば臣下の中ゆく篤実賢支の者を用ひて國家を治めしむる事自由自在あり。國家の安否い主君一人の賢不賢ふよる。主君さへ賢あれば其外の者どもいどうでも仕安きき者也。一軒の家も主じさへよければ其外の妻子けんぞくいかどうぐもあるりのあり。兎角上一人が大事のらものあり。上一人さへよければ。國家を治むる事い大いふ心安き事あり。もしるふ其上一人ふよきくが至つて希あり。此故ふ大夫ふ國家を治むる人ふ皆あふくして。今日ゆもわろびんと思ふ家国だりなり。

しらこふ日少て不時の災ひある時い夫を取留る所の用意ふき家だりあり。其危き事累卵のごし。ふをとも未ざ幸ひふして亡びざるもい仕合あり。劉向新序ふいはく。國家の治まらざる根本い上ふ立人の不智不明ふして善悪邪正の辨別ふき故ありとなり。是ふ間違ひふし。已をが不智不明ふり数万の人ふなんぎをうけ。已をも終ふい亡ぶとなるべし。又不智不明の主君をどおどりを好きて。万民の物をむさぼりふふ。夫ふ付てい。無智ふ悪人ふ政変を申付て民をなやうげ。百姓町人をひどくいやまし。其天罰ふよりて。おてまへの身緒までとふくあり。御國が

衰微して行立がたし。此故に終わい。押込隠居抔とありて。世にもてらさぬふ。あそれ至極とりふべし。世に人の物を乏理を性にむさぼるほどの大悪はあしとするべし。國主郡主。人の頭とあり。てい大事の者也。上一人の思召によつて。下万民のなんぎとある。至りて大切の事あり。何卒身をよく慎て足事をもとり無欲清浄にして。万民の安心にくらをゆうふまべし。我身一人の栄曜をせんとて。万民を苦しむるい大悪無道にして。此上の罪はなるべうらば。是によりてたとひ飢寒えて死もるとも。人の物い決してわしまべうらまじと。意地を急度定めるべし。又君子いむとをいつ

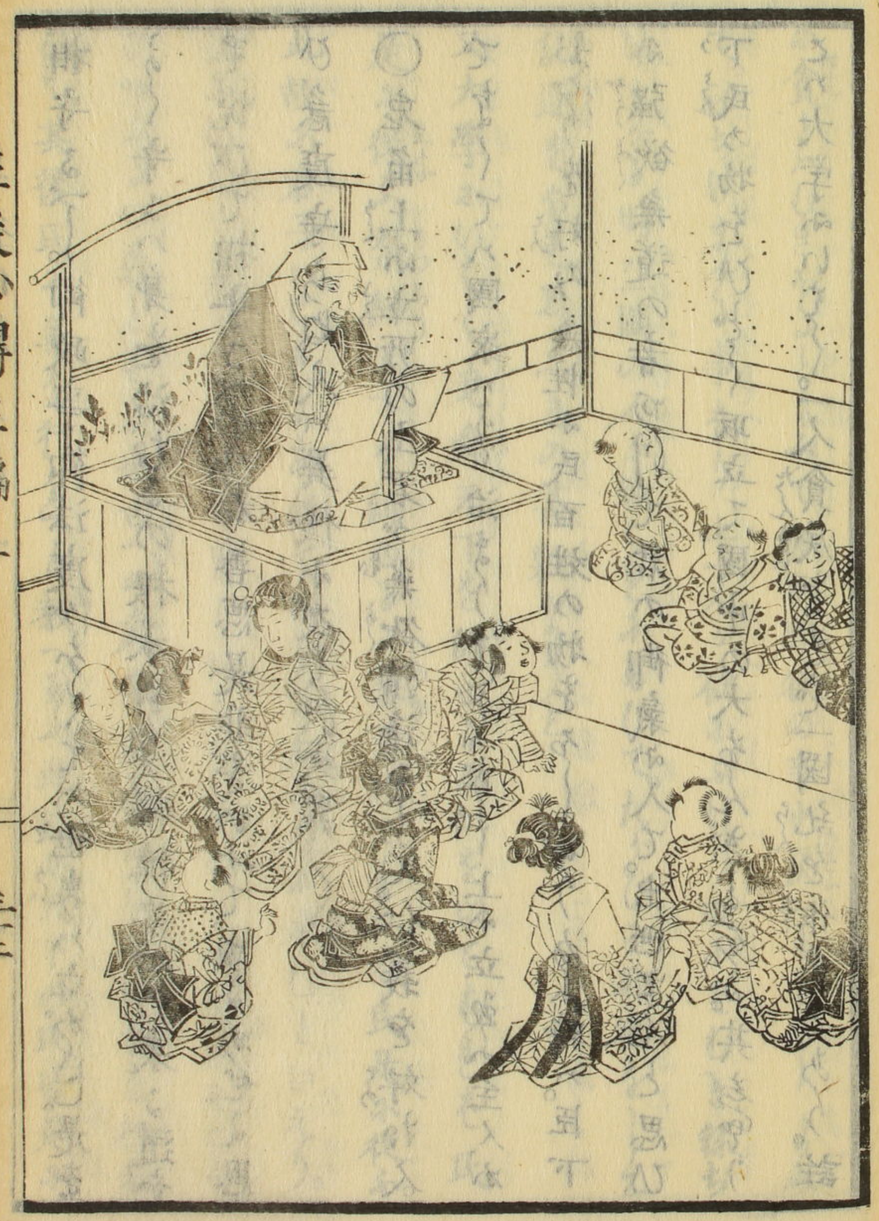
るを以て宝ともとしふ事を深くもるべし。是が即ち福徳安心い来る大道也智者是をもるべし

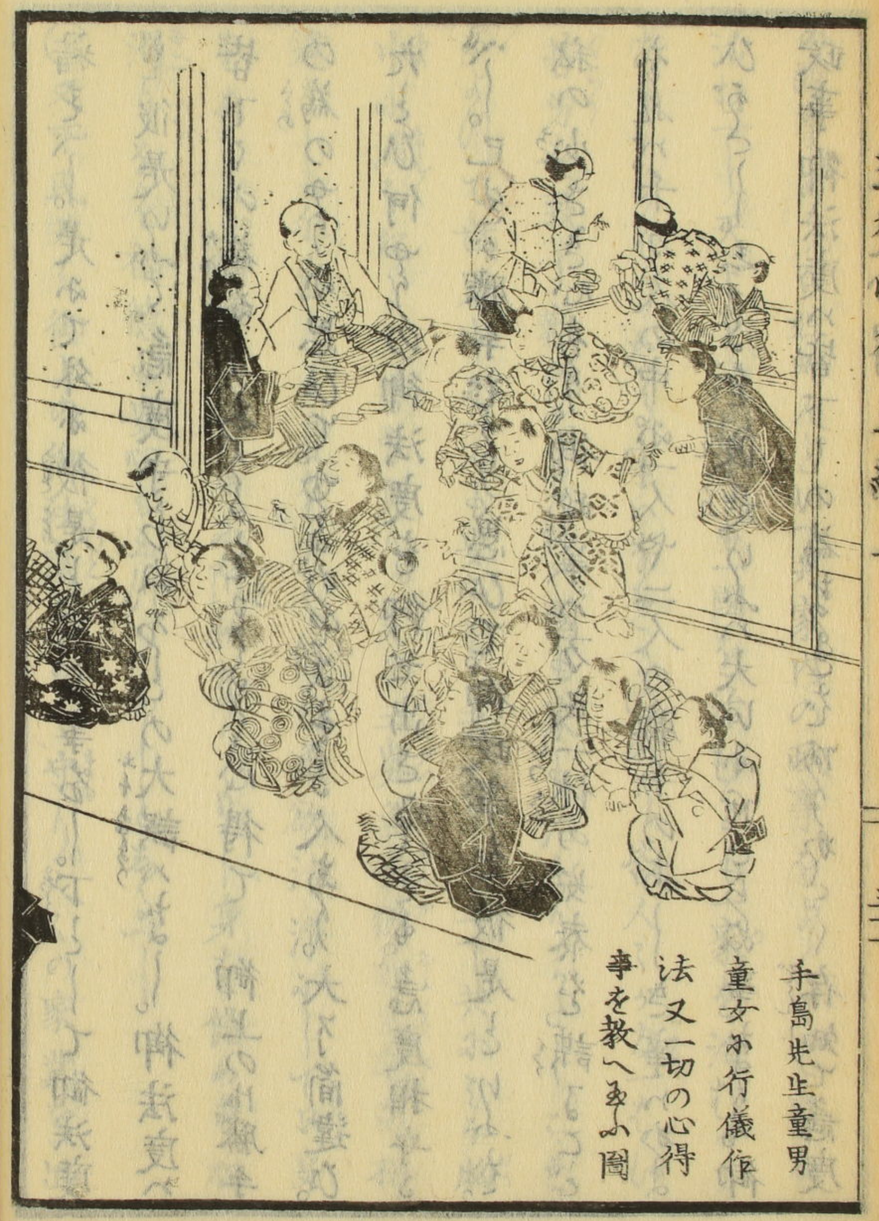
○又主君たる者い学文をして。智恵をみがき一家一門朋友臣下等の智者と相談して。國をも家をも大丈夫に治めるべし。是い國天下の事とむうらば。百姓町人といへども。相應にくらを者い。主人に仁義礼智信がなくてい家い治まりがたし。兎角我身を正しくもて。其後人を治むべし又政事の政い正の字也。身を正しく道を正しくして。無理せず無理いもむ。真直に正直にもる事也。又政事い法度也。國天下の事とむり思ふべうらば人こ家こ

の政事あり。百姓町人といへ共。家内の政事をよくして家を治むべし。天下を治むるも一國を治むるも一家を治むるもあまりかわりたる事はなきものなり。皆人々が力一杯苦労を致し難儀をせねば。國も家も治まりがたし。こゝを分て世界中に一人も安心なる者なし。上下共に胸中に満々たる大苦労あり。実に三界無安猶如火宅に相違なし。汝もとも身をよく慎め無欲清浄にして臣妾を治むべし。福徳安心は夫に附物なり。身を慎み心濁りなば福徳も安心もなしと知るべし

○又下民共も御上の御法度をよく守り。人々の家業を出

精もべし。是にて外に彼是と思ふ事なし。下にして御法度を彼是いふて。急度守らぬなどの大誤ハなし。御法度ハ皆下々の為なり。なるを心得て　御上の御勝手の為のやうに思ひて。ゆるがせにする人あり。大なる間違ひ。たとひ何ゆへの御法度を仰せ出さるとも。急度相守るべし。己れが勝手ばかり思ひて。御政事を彼是とりあつかふ。私の少さき心なり。御政事ハ万民一体の安泰を謀ることなれば。千万人の中に一人や二人の勝手のあしき事ハかなはぬ。ひがごと。なるを彼是いふハ大いなるまちがひなる事なり。御政事御法度ハ皆下々の為なるもだいなりかたく存知て急度





手島先生童男童女ゐ行儀作法又一切の心得事を教へ給ふ圖

相守るべし。御政事御法度がかくては世界は立がたし。是をこの〳〵守るは身を治むるの根本あり。福徳安心の来る道なり。悦びて相守るべし。若善悪是非をいふて。ゆるかせに思ひ怠度守らぬ人は異儀ふ及ぶべき大罪〳〵

○鬼角上ふ立所の主君が無欲清浄ふして。仁義を好む人でなくては國家は〳〵治まりがたし。ふ〳〵上ふ立ふ人がおごりを好み無性ふ民百姓の物をゑ〳〵がりめふ時は。臣下ふ強欲無道の者ふ用て君の御氣ふ入て。出世せんと思ひ。下民の物をひど〳〵取立て。國中の大ふんぎとなる。其志ゆうこと大学ふいはく〳〵。一人貪戾なるもの一國乱を作もとあり。註

ふ貪とは むさぼるとよみて。強欲邪欲の事也。戾は もとるとよみて。ねぢけまがる事あり。上一人が欲ふふけり理ふそむき。ねぢけまがる時は一國の人が皆こをふるひて。たがひふ邪欲をして乱逆をなす。恐るべきの甚敷なりと

又大學ふいはく〳〵。堯舜天下を帥ゆるふ仁を以てもちて民是ふ従ふ。桀紂天下を帥ゆるふ暴を以てもちて民是ふ従ふ。此故ふ君子は已をまあ用て而して后ふ人ふ求むといえり。註ふいはく〳〵暴とは はけもなく ひやぶるの義とまる也。古への堯帝舜帝は身ふ仁善を行ふひて。其後民ふ善を行ふと教へふ。此故ふ天下の民皆是ふ

從ひて。善を好ミ悪をにくむる者あし。又夏の桀王殷の紂王ハ私欲を恣まゝふして暴虐を好まるゝよりて。天下の民皆こゝをふ習ひて暴虐をあく世の中ハ大乱あり。桀紂の二王も終ふ亡びて四千余年の今ふ至るまで。大悪名をのこし。いつでも悪事の手本ふ引出さるゝふ後悔千万也。此故ふ君子ハ先我身ふ善を行ひて。其後人ふ善をせよと教へるふ。此故ふ万民よく治まりて。天下泰平あり。若上たる人ふ私欲ゝとあまりある時ハ。下民のあんぢふ言葉ふハいひつゝしがたし。此天罰ふよつて終ふハ國家を亡ぼすべし。よゝ考へて見るべし。善をすゝとも一生悪をすてゝも一生。然らば善をするふ何ぞの利徳がある

ハあるべきし。若悪をする時ハ。何とあく心ふ苦しゝこのうて安心あし。心ふ悪をのうて其行おひ正しからざる時ハ心がうをて。何こあく恐るゝ所あつて。心氣を養ふとあるべきし。是大いふる苦労難渋ふして其上ふ福徳あし。是程の損ハあるべきに。孟子ふいへる浩然の氣を養ふ事あるべの道理あり。行おひ直からざる所ある時ハ心を安んぜば休餒て一切のあも事皆心労あり。心ハ身の神明ふして。諸くの理をそふへて。万づの事ふ應ぜ心ハ霊妙不測の神也。此故ふ無理ハ心ふ受ぬ也。心ふうけぬ事ハ。天地の神明が受ぬ也。天地の神明が受ぬる時ハ。災難不仕合をかり来つて。福徳安心あし。是ふよりて

無理非道ハ決して致さるべし。無理非道をすれば神明ハ捨らるて浮む瀬更ハあしし。夫故り手嶌先生の前訓ハいとく。何ハかぎらず空りふくり為たりハあるべきものなれば。是人間第一のたしなみあり。人の本心ハ正直なるが生まれ付なれば故ハ人く少しふても偽つくろるいとを為がいなや。忽ち我腹の中ハ急度氣味がるく覺えがあり。恥ずかしきハ事也。盗賊或ハ人殺しも幼少れ時ハ同じ人なれ外ハ種のそなりたるふてハあれ。皆此うそをつき習ひ。段くと上手ハあり偽のあるりさる者が。切の悪性事をしたり。なるひと盗賊を殺し人をも殺さや

ようハなり申候。さるき事をあくして。人ハさらぬと思へども我腹の中ハ我がよく知るなり。此さる心が直り神様や仏様と一体なり。さるをいとぬさびせぬさびの事をいふたり為たりまるハ。神佛のはきらひ故ハ心うけぬなり。さるを。此本心の氣味さるく思ひて。うけぬ事ハあるべてなりハ。たり さるりハせぬものなりく御心得可被成候。古哥ハ〇ゆ川さるりを人ハいひてやくさるまじ。心ゝ問でいふこと〳〵。何ハあぎらるを是ハあ〳〵きと思ふ氣のつきたる事ハさくあさきぬ者ハてい。是さるき事にあらば御幼稚の時より。御成人の後まで大入用の事ハして急度ハ心得可被成候學問の至

極と申ハ別の事ハてハなし。唯此悪きと思ふ事をいえぬと
せぬとの外ハなくひとあり。是ハてよくさるべし。身ハ悪心
悪行私欲をだうまりなりてハ所詮安心も福徳もなしとさるべ
し。心ハ人の神明衆理を具へて万事ハ應ぜる奇妙不思
議の者なり。心の神明々徳ハ少しの悪も受ぬなり。其神明
ハ至公至誠ハしして。少しも私しなき故ハ吉凶禍福を人ハ
命まる所の事をよきもなしきも其正しきより出る変
あるべ。賞罰ハ少しも依怙ひきの私しなし。此故ハ君子
ハ一向ハ身をおさめて善を為し其福徳をもとまひき
求むる事なし。皆天命ハ任せて此方ハ唯人事を尽し善

をなものくハるハ小人ハ無理非道をして幸ひをもとめ
んとも。是大いなるあやまり也。無理ハ福徳を得んと去
たとて中く得らるゝ者ハなしらず。天道のゆるし給ぬ事
も成就まる事なし。是を無理ハ求めんとも出ぞくり
てもどさいをまねき。滅亡ハ及ぶとさるべし。冥加訓ハいえ
く。天のなとへなく人の支覚ハて求め得る分ハ疾ハ避
くら天より取らへし也。其取くさる時ハ大事なり。
なしくもまた。一命共ハ取くさる事あり。我ハ実為
らを名も得べし。我ハ仁徳あらを福も得べし。天のハ
さる変なもを此方ハてきりつりハ出来なし。

万事此道理あり此方ふてきりつりうきれハ尚ほうろ一天ふ任せあくらはし

天ふ任せるべし。もまふ善ならぬ。天より賞をなすべ
へふべし。もれふ悪あらバ天より罰をなすべ。天
ハ此賞罰の役なもを少しも依怙贔屓の私ハなるまじ
らぬ。兎角天ふ恥てを居るを楽しとすべし。善悪共
ふ天の帳ふつくと存じて慎み恐るべし。當分ハ免る
置ふとも。一度ハ勘定ふつて差引ふあふべし。無理非道
ふ利を求めて元迫失ふべうらぬ。書經の心是なりとあ
る。此通ふ心得わらを明闇陰陽なく善事をせ祭バふ
らぬ道理也。よき教へあり此道理をよく心得て昼夜善

事をあらを致すべし。若無理非道の悪事をせば。天の帳ふ
つて否應なしふ貧乏難儀のせめをうくべし。こもふよ
つて人事を盡して天より福德を授けふを待ミ
天ふ随ひ善をなるハ。安心ふして福德あり。天ふ逆ひて
私心邪欲をなるハ。貧乏なんぎとなる。是大損大恥れ
道なり。何卒少欲知足仁義正直の善道を以て心を養ひ
安宅ふ住居すべし。此上の福德安心をあるべらぬ

○大學ふいはく。百乘の家ふハ聚斂の臣を畜ふなら聚
斂の臣あらんよりハ寧ろ盗臣あるべしといふ。國家ふ長とし
て。戝用を務むるハ必ず小人ふよる。彼為善之小人をして

國家を為めをむきハ蓄害並び至る。善者ハ〳〵といへども是をいうんともまる事なし〳〵是を國ハ利を以て利〳〵せず。義を以て利と為といふとなり

彼為善之の四字諸説多けれども。通せば此今の上下り文字字のなやまりあるんと註してあり。そうを此四字ハ昔〳〵より知もざると見えたり近頃学庸精義を見るり彼ハ君を指ハ之ハ戝用をつとむる者をさいしとあり。是ハて前後の義理もよく通ぜるかと思ふ。諸君子の評をまち

註り百乘の家とは軍役ハ兵車を百輌出せ家の事

あり我朝の御大名方の。家老衆ハ〳〵とあり。ハまた也上の文よりの心ハ。御大名方並ハ御旗元衆家老衆りて。知行取の事也聚歛とりふを定りたる年貢の外ハ色〻お手立をして。下民をくるしめ財宝を取あげて君の御蔵へをさむるを。聚歛の臣とりふ。御益〳〵と名を付けて。御上の為をまるゆうあもども。実ハ御上の御氣ハ入て我身の出世をせんさめ也。私欲邪心を以て下民を志へたけ。取あ川めたる所の財宝あるもで。〳〵川て君の不益とあり。後ハ大災ひとあるなり。此故ハ志うきんの臣あるんよりハ盗ミまる臣下がまし〳〵あるんとりふ事也。何故あるバ

武田信玄四十一才上杉謙信八
三十一才永禄四辛酉九月四日
信州川中嶋の合戦

君の物をぬすまんとふ。君御一人の御損ふて。御家御身の大さわりあり。然るふちうまんの臣を養ひおけば。萬民をくるしめ。國を亡ぼし身を失ふ所いたる。此上の大そ[illegible]ひあり。此故ふちうまんの臣ならんよりハ盗ミするの臣下の方がましぢやといふ事あり。是ハ盗臣のなるをまいとりふあらぢ。ちうまんの臣ハ盗人のうちまい取ゐまべ。此上もない大悪人ぢやと。いやしめたることを也。又國家ふ長として財用をつとむるハ必を小人ふよるといふと。長とハ頭役の事あり。頭役の小人が。君の御様ふいらんしてて聚斂の事ぢわり申し上て。財用をつとむる事ぢわりをい

れし君を私欲非理の方へ導きて。大害を引出ま大悪人ぢわり。ふ君もまと是をあしとて此小人を用ひて國家の政事をつとさとしむ。此故ふ天蓄地妖来りて多上下万民の大ゐんぎ也。此時ふ至りて智者善者なりとい へども。是をいうんともをるとなし。是非共ふ國家を滅亡もべし。是を利を以て利とをるハ國家の大害義を以て民を治むるを。國家の大幸ありとふ此事をよくちつて。何でも世の中ハ仁義禮智信の五常を以て。民を治むべし。左様ゐ〜てハ。國家ハ治まりぐ〜。當分の利を見て民の物を取集むるハ無智愚鈍の此上ゐ〜と云るべし

○學庸精義ふいそく。仁義をつとめて。聚歛を汲て倉廩を実す者ハ則ち小人の所為也。人主此人を喜んで。是ふ大政を授く則ち民散ゝて四方ゝ行蓄害禍乱亦並び至る。此時ふ當つて堯を以て君と為し。舜を以て相と為し。禹稷皐陶伯益之徒。是を謀るといへども。夫餘殃の如きハ。何如せん故ふ明主の國を治むる。衆ふ擇んで其賢を挙て以て。國政ふ臨む。夫の小人をして其政ゝ問へしめず。易ふいそく大君命あり國を開き家を承る小人を用ゆる事ありとハ。此の謂也とあり。是ふて民をむさぼる主君。ゆゝしき臣下ハ。大悪無道の人と定めあくべし。ゆゝしき人等の事ハ。明君忠臣ハ決してせざる所なり。唯無智の主君。不忠の佞人どもかもるこゝ也。世の中をもるゝ罪人也

○是ハ民をむさぼる主君。其手傳ひをもるゆゝしき臣の事とぞうり思ふべうらば一切万民の身の上ふかゝる事あり。何でも人の物を無理無性ふ取しがる者ハ大いふ人ふ憎まれきらはれて。大損をもる人也。強欲者にハよい事ハきうせぬ者也。邪欲強欲の人ハ。人うにくまれて人の用ひもなくなりて。出世も出来ず。あくにん貧乏をもる者也。出る息引息ふ人の物をふしゝる

者ハ近付ふもありがたし。近付ふると直ふ無理をして損をかける。人の物を無性ふ不しがる者ハ。大悪人ろしして。慈悲もあさけもない者也。事ふよるバ主も親をも殺す者あり。大いふ恐るべし。私欲邪欲を我身勝手ゆりおこる。我身勝手だうをする人ハ無慈悲の悪人あり。出ふよりて主をも親をもところも事あり。哥ふ　○身を思ふ人をあらうふよせつけぬ。主をも親をもと。ころにのあもと。是ふてあくあるべし。身を思ふとハ我身勝手をする人の事あり。世ふ人の物を無理ふ不しがるほどの。大悪事ハあるべうもの。無理非

道我身勝手の私しゆり大災ひを引出し。家をも身をも失ひて大苦脳の受る事也。夫故ふ法花経ふも諸苦所因貪欲為本とありて。一切の災ひ苦しこの因ハ貪欲私欲を以て本とするとりゝ事也已ぞ得手勝手だうりを思ふ故ろ。全人をもたぶらうし。人をもところもゆうふある事あり。一切の悪事ハ。欲の一ツゆりおこる。一切の悪事を欲の一ツの変化也。欲の一ツさゝ取てのけもぞ。身ハ安心安楽あり。私欲の一ツより大苦労を求めて。遠島死罪ともある也。是ふよりて私欲邪欲ハ諸々の苦の種。國家を失ふの本源とするべし。狂哥ふ

○人ハあつかハあるとゝ。そふうをに。我身勝手ハ。うつ智恵ハあん
○人心いゆ〜〜ハ金ハ目ゞ。ついて終りハ大びゆうしとある
○大こそゝこゞのまよひ無理非道。命失ふゝきありをと
○兄弟も人交りも何もあるとゝ。よくのつるぎで中をゝつあり
○欲のつるぎ恐るゝあらバ仁義礼。無欲清浄ちゝ〜学ゞよ
○天地の四方ハ敵ハあいりのぞ。無慈悲貪欲ゆまつぞ大敵
○日てハのられふこゝあけ日ゞ心。私心邪欲の垢をおとせよ
○みゞいちゝみゞいこゞをよ光る也。心くのれバ身ハあんぎ明り
○神仏儒三つの道をいよく修せよ。現世安穏後生極楽
○儒仏神よき教をバ志らべ〜て。そ志りゝそゝ人ぞうあ〜き

○神儒仏ふりとの道ハられゞ。のゞきバおあゞ月を見るかゝ
○仁義礼。人の心の徳ぞうし。ひろ〜学びてとれをおとれく
○何事も五倫五常によらざれバ。異端俗儒の邪けんものあり
○身を脩め家を齊ふ外ハあし。とれかそあるる徳をみがけよ
○善をあ〜悪をせざるをバおのづゝ。家ハさうくて身ハ楽おもの
○つとむゞ〜家業ハ天のやくめあり。天ハそむけバ身ハあろぶべ〜
○誰くもらぬがれのりて利口顔。不足ゝらゞ〜世をくゝるもあり
○まづ〜くハまづ〜きまゝふ楽志めよ。富さうえあぞ礼義ゝきゝ
是等の狂哥をよ〜かんゞへて。ゆどよき所を通りゆふべし
何とぞ人欲の私ハ勝て本然の善を全うもべし。是ぞ人間

の本心を養ふといふ者ぞ。福徳安心の来る大道なり。かゆりの道理なれば。たとひ何ゆゑの事ありとも。人様の物を決して無理ぞ。若無理ぞ人の物をかしぐまば。家を失ひ身をころすべし。此事を深くもつて無欲清浄ぞ心を持べし。無欲清浄なる人は。人も愛して世間もひろく身も心も安楽也。又天より福徳をも下さるべし。夫故ぞ佛神聖人は無欲清浄ぞなると教へまふ。又君子はむさぼらざるを以て宝とすと教へまふ。孟子ぞも心を養ふは寡欲なるきはなりとあり。是等の教へをよく用ゆべし。又北條九代記ぞ泰時のいはく。少欲なりて足事を知る時は心底ぞあとしく清ぞし。心底ぞ邪しまぞき時は一切の為まと皆善なり。心底ぞ邪しまある時は。一切為事皆悪なり。人倫の恥也。人の物をむさぼるより大いなる也なし。と仰せられたり。是ぞ間違なし。一切の災ひは私欲身勝手より大いなる也なし。士農工商とりぞ私欲深くして人の用ひもなくなれて。貪乏なんぎなる也。世ぞ人の物を無性ぞかしぐ私欲邪欲などの大敵をなし。一切の悪事ともなりぞおこる。此事を深くなれて此とへりなて死なるとも。人様の物を無理ぞ決してなるべからぬ。急度心得ゆへ。又士農工商共より人のもの

無理ふ〻しがつて。ことぞをわくこゝふ巻ふ心根を智者よ
り見る時ハ。至川て見ぐるゝき者也。又こびへ川らいも智
者ハせざる所也。哥ふ○色川らいハ欲心かうや耻もあき。
ゝ〻あき人のきげんふも取と。あるゐどゝ〻あき人の
きげんをとるふ間違ふ〻。何でも人の物を無理ゐゐ
〻がるゐどの大損大耻ハふ〻と志るべ〻
○何でも仁義礼智信の五常を行ひ少欲知足ふ〻て。
世の中をくらもべ〻。左様ふくてハ誠のよい人といひぐ
たし。又福徳も安心もふ〻と志るべ〻。孟子のいとく堯舜
の道も仁政を以てせざもバ天下を平治もる事あこそも

と。又いとく。仁ハ人の安宅也義ハ人の正路也安宅を曠〻く
志て居らも。正路を舎て由らも哀哉とあり。註ふ安宅と
ハ安穏ふる居り所とりふ事也。是ふ居る時ハ。自づから安く
〻てゆとりあり。志ふるふ安宅ふ居らもぜ〻て危ふきあん
ぎの家ふ居り。又正路とハ正〻き道筋ふり義とも天
理當然のよろ〻き道也。是をゆく時ハひろく〻て安ら
かあり。然るふ此道をゆく人ふ〻皆あやうき道ぐりゆ
く。無智不明とりふべ〻。上下共ふ仁の安宅ふ居り。義礼
たゞ〻き路を通りゆふべ〻。是ぞ誠ふ福徳の来る道と志
るべ〻。又孟子のいとく。不仁者ハ共ふ言べからぬ。其危きふ安

んじて其苗ひを利とも其亡ぶる所以を楽しむとあり此心ハ不仁無智の人とハ與ゐ咄しも出来ざし。其危ふきあんぎの所をちらぢして。ゆへ川て安心するゐい所と思ひ。又大苗のある損ある所をぞちらぢして。ゆへつて利徳あるゐい所と思ひ。又おごり遊山名聞ハ皆國家をゆぶるの道あるゆへ。かへりて是を樂ちと思ふ。又不仁者ハ私欲邪欲ゐ走りて本心の徳を失ひ。不仁不義をして。終ゐハ滅亡ゐ及ぶとあり。吾人共ゐ無智邪見ゐハ大ゐなる。その危き ゐ安んじて其災ひを利と為。其亡ぶる所以をちらぢと いとまてハ一言もあり大閑口

三篇上 終